

家畜衛生情報

東部地域畜産経営技術推進指導協議会
689号
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
2026.10.10
富山県西部家畜保健衛生所

- ☆令和8年度家畜伝染病防疫演習を開催しました……………1
- ☆鳥インフルエンザの流行期を前に
基本の徹底を……………2
- ☆口蹄疫とランピースキン病の現状
-越境性動物疾病対策推進会議より- ……3
- ☆飼料価格高騰経営安定緊急支援奨励金
交付の案内(第1・第2四半期分) ……3

- ☆令和8年度富山県畜産共進会(肉豚の部)
が開催されました……………4
- ☆第67回全国家畜保健衛生業績発表会の概要 ……4
- ☆検査室レポート……………5
- ☆【トピックス】脂肪壊死症……………5
- ☆防疫情報……………6
- ☆秋のハエ対策……………6
- ☆お知らせ……………6

令和8年度家畜伝染病防疫演習を開催しました



模擬農場における防疫作業訓練

10月1日に富山県農協会館において令和8年度家畜伝染病防疫演習を開催しました。本演習は高病原性鳥インフルエンザ等の特定家畜伝染病が県内で発生した際、迅速にまん延防止のための防疫措置を実施できるよう、防疫体制の点検と周知を図ることを目的に毎年開催しています。

今年はまだ国内の農場や野鳥で高病原性鳥インフルエンザは確認されていませんが、9月1日には宮城県で渡り鳥の飛来が確認されており、これから鳥インフルエンザの発生リスクが高まる季節を迎えます。改めて農場の衛生対策の点検を行い(参考記事2ページ)、家畜伝染病の発生予防に万全を期していただくようお願いします。

(西部家保環境課 宮本課長)

鳥インフルエンザの流行期を前に基本の徹底を

秋は飛来する渡り鳥によって高病原性鳥インフルエンザウイルスが国内に持ち込まれるリスクが高まる時期です。近年、高病原性鳥インフルエンザは世界的な流行が継続しており、国内では過去に発生歴のある農場での再発や、大規模農場での発生が目立つことが報告されています。環境省では毎年9月から早期警戒期間として野鳥の監視体制を強化しており、今シーズンも全国的な警戒が始まっています。昨シーズンは10月中旬から野鳥での感染が確認されはじめ、11月中旬～12月中旬と3月上旬～4月中旬にピークがありました。これは、秋の渡りにより冬鳥が国内に到着する時期と、春の渡りで越冬地から繁殖地に移動する時期にあたっており、ウイルスを保持する野鳥が海外からのみならず、国内を縦断していることが示唆されます。

さらに、これまでの対策では、防鳥ネットの設置や野生動物の侵入防止が重視されてきました。しかし近年の疫学調査では、明らかな野生動物の侵入痕跡が確認されない農場でも発生事例がみられました。そのため、野鳥の排せつ物や羽毛、塵埃（じんあい）などに付着したウイルスが、資材や空気の入入口を介して鶏舎内へ侵入した可能性も指摘されています。農場の衛生管理体制の繰り返しの点検・整備をお願いいたします。

鳥インフルエンザ対策 ～大切な家きんを守るために、今できることを確実に！～

1 農場出入口での車両消毒の徹底



農場出入口で、すべての車両の消毒を徹底しましょう。

2 専用の衣服・長靴の使用



衛生管理区域専用の衣服・長靴を使用し、農場の外では着用しないようにしましょう。

3 鶏舎ごとの専用長靴の設置



鶏舎ごとに長靴を履き替えましょう。

4 鶏舎入退場時の手指消毒



鶏舎の入退場時には、手指の消毒を行きましょう。

5 防鳥ネットや壁面の点検・補修



鶏舎の窓や換気口、隙間に防鳥ネットが適切に設置されているか、また壁面の破損箇所がないかを定期的に点検し、すみやかに補修しましょう。

6 ネズミや害虫の駆除



ネズミや害虫はウイルスを運ぶ可能性があります。継続的な駆除を行きましょう。

7 鶏舎周辺の整理整頓と環境美化



鶏舎周辺を整理整頓し、不要な資材やごみを放置しないようにしましょう。

8 死亡鶏や破卵の速やかな処理



死亡鶏や破卵は、決められた方法で速やかに処理しましょう。

入れない・持ち込まない・広げない

～地域全体で鳥インフルエンザ対策に取り組みましょう～



大切な家きんを守るために
今できることを
確実に！

（本図は生成 AI ツールを使用して作成しました）



左記 QR コード（スマートフォンで読取り）
鳥インフルエンザ発生農場における疫学調査でみられた不適切な
飼養衛生管理の例等の写真（農林水産省 HP）

（西部家保防疫課 藤井主任）

口蹄疫とランピースキン病の現状－越境性動物疾病対策推進会議より－

【口蹄疫】口蹄疫は偶蹄類の口や乳房、蹄などに水疱を形成するのが特徴的な伝染力の強い病気です。日本では2010年の終息以来発生はありませんが、海外では依然として発生が続いています。アジアでは血清型0、A、Asia1が流行しており、今年7月には韓国で血清型0が発生しています。加えて、アフリカの流行株である血清型SAT1が今年3月に中国で、5月にモンゴルで発生しました。また、1月には中国からの訪日外客者の違法な携行品の山羊肉から、感染力のある口蹄疫ウイルスが分離されました。摘発された畜産物からの感染性のある口蹄疫ウイルスの分離は世界初であり、ウイルスが国内の農場に侵入するリスクは非常に高まっています。

口蹄疫にワクチンがありますが、感染を防ぐためのものではなく、同一の血清型ウイルスにしか有効ではありません。国でも水際対策は強化していますが、畜産関係者の皆様におかれましても日頃から侵入防止対策を今一度見直していただきますよう、よろしくお願いいたします。

【ランピースキン病】ランピースキン病ウイルスは吸血昆虫によって媒介され、牛や水牛に皮膚の結節を形成したり、乳量の低下等の症状を引き起こします。国内では2024年11月6日に福岡県で初めて発生し、同年12月26日に終息して以降の発生はありません。しかし隣の韓国では今年9月にも発生が認められ、淘汰や緊急ワクチン接種が実施されており、日本への侵入リスクは依然として高い状態にあります。

日本では今年7月に家畜伝染病予防法が改正され、本病は家畜伝染病に格上げされました。これに伴い、患畜および疑似患畜となった場合には殺処分の対象となり、焼埋却等の義務が発生します。国では万が一の発生に備えてワクチンを備蓄していますが、より迅速に対応するため各都道府県にもワクチンが配備されることとなりました。まん延防止に万全を期すためにも、早期発見が重要となります。疑わしい症状を発見した際には早期通報をお願いいたします。
(西部家保防疫課 増永係長)

飼料価格高騰経営安定緊急支援奨励金交付の案内（第1・第2四半期分）

県では、飼料価格等の大幅な高騰の影響を受けている生産者の皆様の経営安定を支援するため、コスト低減等の取組を行う方を対象に、配合飼料等（4に定義するもの。以下同じ）の購入量に応じた奨励金を交付します。奨励金の対象となるのは、令和8年4月1日～令和8年9月30日の間に購入した配合飼料等です。交付申請等の手続きの詳細は下記をご参照ください。

- 1 奨励金交付対象者：県内の農場で畜産業を営む方（地方公共団体を除く）で、奨励金交付申請書別紙様式のコスト低減等の取組※を3つ以上取り組まれている方。
(※取組内容については6月に郵送した交付申請書でご確認ください。)

- 2 奨励金（第1・第2四半期分）の額：配合飼料等の購入量1トンあたり 定額800円

- 3 対象期間：令和8年4月1日～令和8年9月30日

- 4 奨励金額算定の対象となる配合飼料等

- ・配合飼料価格安定制度の対象となる配合飼料
- ・穀物由来の単体飼料（米及び米由来の飼料を除きます。）
- ・混合飼料のうち穀物由来の飼料（米及び米由来の飼料を除きます。）

※いずれも対象期間中に納入されたことが確認できるもの。

※生産者の皆様から交付申請のあった奨励金の総額が、県の予算額を超過した場合は、交付申請額よりも低い額での交付となる可能性があります。

- 5 奨励金交付申請書の提出先及び提出方法

富山県農林水産部農業技術課 広域普及指導センター（郵送または持参）

〒939-8153 富山市吉岡 1124-1 農林水産総合技術センター敷地内 TEL 076-429-5043

- 6 奨励金交付申請書の受付期間：令和8年10月20日(火)から令和8年11月4日(水)まで【必着】

- 7 お問い合わせ先：富山県農業技術課畜産振興係 TEL 076-444-3289

(農業技術課畜産振興係 松原主任)



令和8年度富山県畜産共進会(肉豚の部)が開催されました

9月11日、射水市の富山食肉総合センターにおいて、令和8年度富山県畜産共進会(肉豚の部)が開催されました。今回は県内9農場から、去勢と雌の2頭を1組とした50組100頭が出品されました。(公社)日本食肉格付協会富山事業所の吉田所長をはじめ3名の審査員による厳正な審査の結果、優等賞3点、1等賞6点が選ばれました。

優等賞1席(富山県知事賞)は、魚津市農協の(有)シンムラ東部養豚センターが受賞されました。受賞した枝肉は、去勢が80.9kg、背脂肪1.9cm、格付「極上」、雌が枝肉重量80.9kg、背脂肪1.5cm、格付「上」という結果で、審査講評では「去勢と雌の重量が同じで、重量感があり脂肪の付着に無駄が無く、切開面のロースおよび周辺の筋肉にも脂肪交雑があり、ロース芯面積の大きさや形、バラの厚さがペア間で揃っていた」と評価されました。

審査結果は下表のとおりでした。受賞された皆様、おめでとうございます。

令和8年度富山県畜産共進会(肉豚の部) 審査結果

区分	農協名	受賞者
優等賞1席	魚津市	(有)シンムラ 東部養豚センター
優等賞2席	あおば	(株)シムコ
優等賞3席	いなば	(有)シンムラ 小矢部養豚
1等賞1席	黒部市	南進



優等賞1席の枝肉

(西部家保環境課 宮本課長)

第67回全国家畜保健衛生業績発表会の概要

令和8年9月16日、17日に東京都の農林水産省にて第67回全国家畜保健衛生業績発表会が開催され、全国から選抜された48題の発表が行われました。富山県からは東部家畜保健衛生所の林獣医師が「牛サルモネラに対する防疫対応の再構築により清浄化を達成した一事例」を発表し、農林水産省消費・安全局長賞を受賞しました。

以下に農林水産大臣賞を受賞した2演題の概要をご紹介します。

○「本県の豚熱疑似患畜発生農場におけるウイルス侵入経路特定と経営再開に向けた取組」茨城県県北家畜保健衛生所

県内養豚場において豚熱ウイルス(CSFV)の侵入が疑われたため農場内および周囲にセンサーカメラを設置したところ、防護柵外側の水溜まりでは水浴びするイノシシが、畜舎周囲ではネズミが侵入する様子が観察された。さらにウイルス検査で水溜まりからCSFVが検出され、その水が農場内に流入していることが判明。そこで防護柵周囲の側溝の設置やコンクリート製の防護壁の設置、畜舎の野生動物侵入対策を実施したことで、経営を再開することができた。

本県においてもイノシシからCSFVが検出されていることから、防護柵を設置しているからと安心することなく、畜舎内へCSFVを侵入させないために防護柵周囲の点検と畜舎における野生動物侵入対策を徹底してください。

○「岡山県のブロイラーから分離された *Enterococcus cecorum* の細菌学的解析」岡山県岡山家畜保健衛生所

近年、鶏の化膿性脊椎炎の原因として問題視されている細菌の *Enterococcus cecorum* (EC) について、病原性株と共生株の識別方法を確立するための調査を実施。岡山県で分離されたEC30株について「遺伝子解析(PFGE)」、「鶏卵接種試験」、「病原因子の疑いがある遺伝子群(病原遺伝子)を検出するPCR検査」の3つの試験を実施。PFGEの結果、ECは5つのパターン(I~V型)に分類され、鶏卵接種試験の致死率はI、II型が60%、III、IV型は20%、V型が70%。PCR検査の結果、I型とV型で複数の病原遺伝子を保有していることが判明した。

この研究によって農場で分離されたECがI型やV型であった場合は鶏に病気を引き起こす病原性株の可能性が高いと判断し、迅速に対策を講じることが可能となります。今後さらに情報を解析することで、ECの病原性株の識別方法が確立することが期待されます。

(西部家保検査課 長澤主任)

検査室レポート

検査実施状況（令和8年6月21日～令和8年9月20日現在）

区 分	畜 種	診断名・検査名	件数	頭羽数	検体数
病性鑑定	乳用牛	細菌性乳房炎	50	118	224
		産褥熱	3	3	3
		熱射病	7	7	7
		第四胃右方変位	1	1	1
		第四胃出血	1	1	1
		鼻出血	1	1	1
		その他	68	82	96
	肉用牛	牛鞭虫症	1	1	1
		急性鼓脹症	1	1	1
		脂肪壊死症	1	1	1
		第四胃破裂	1	1	1
		熱射病	3	3	3
		牛コロナウイルス病	2	3	3
		牛パスツレラ症	1	1	1
		乳頭糞線虫症と牛パスツレラ症	1	1	1
		牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	1	1	1
		敗血症	1	1	1
		心臓逸所症	1	1	1
		その他	40	47	47
	豚	豚レンサ球菌症と豚パスツレラ症	1	1	1
		豚パスツレラ症	2	2	2
		豚鞭虫症	1	1	1
		その他	8	27	56
	めん羊・山羊	その他	11	28	35
一般検査	牛・豚・鶏・山羊		125	452	1,179
鳥インフルエンザ検査	鶏	抗体検査	18	180	180
BSE 検査	牛	エライザ検査	4	4	4
TSE 検査	めん羊・山羊	ウェスタンブロットまたは免疫組織学的検査 (動物衛生研究部門に依頼)	3	3	3
豚熱検査	野生いのしし	PCR 検査	12	697	697
合 計			370	1,670	2,553

【トピックス】脂肪壊死症

脂肪壊死症は腹腔内の脂肪組織が壊死することで、石けん様の固い組織に変化する疾患です。脂肪組織の硬化によって消化管の圧迫、狭窄による通過障害、尿管の圧迫、子宮の狭窄を招くことで重症例では死に至ることがあります。牛での発症には遺伝的要因や育成期の過肥が関与していることが知られており、特に肉用牛の肥育牛や繁殖雌牛においてみられます。本病を発症した牛は食欲不振や下痢や便秘といった臨床症状を呈し、直腸検査による脂肪壊死組織の触知等によって診断されます。本病は治療法が確立していないため、本病が発見された牛は緩和治療を行い早期に出荷することが推奨されます。本病を疑う症状がみられた際には臨床獣医師へ速やかにご相談ください。

（西部家保検査課 長澤主任）

防 疫 情 報

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病 名	畜種	発生日	戸数	頭羽数	備考
牛コクシジウム病	牛	9月2日	1	1	
牛パストレラ症	牛	9月5日	1	1	
乳頭糞線虫症と牛パストレラ症	牛	9月8日	1	1	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	9月16日	1	1	と畜場発見

県内における野生いのしし豚熱 PCR 陽性事例（令和8年8月27日～9月30日検査実施分）

	発見状態	発見又は捕獲日	発見又は捕獲場所	成長区分	性別
1	捕獲	8月31日	氷見市田江地内	幼獣	雄
2	捕獲	9月12日	氷見市日名田地内	幼獣	雄
3	捕獲	9月17日	氷見市日名田地内	幼獣	雄
4	捕獲	9月21日	氷見市角間地内	幼獣	雄
5	捕獲	9月23日	氷見市中波地内	幼獣	雌

秋 の ハ エ 対 策

秋も深まり気温が下がってくるとハエの姿は徐々に減ってきますが、実はこの時期こそハエ対策に重要な時期です。秋は気温の低下に伴い、卵から成虫になるまでの期間（幼虫・サナギの期間）が夏場の約7日から約45日へと大幅に伸びます。孵化サイクルが長いいため、丁寧な除糞と清掃・畜舎の乾燥・適切な堆肥化といった環境対策が実施しやすい時期です。このタイミングで発生源を叩いておくことで、畜舎内でのハエの越冬を防ぎ、来春の爆発的な大量発生を未然に抑えることができます。さらに冬場は、クロバエ類が鳥インフルエンザウイルスを媒介するリスクも指摘されており、秋からの継続的な防除が欠かせません。

これからの時期の対策が、次シーズンの衛生環境を大きく左右します。寒冷対策と並行して、農場内の隠れた発生源を徹底的に清掃・消毒しましょう。

【ハエ対策のポイント】

- 丁寧な除糞と堆肥の適切な発酵：幼虫の主な発生源となる糞尿をこまめに清掃してください。堆肥舎では定期的な切り返しを行い、60℃以上の発酵熱で卵や幼虫を死滅させましょう。
- 残餌・水溜まりの解消：飼料の食べ残しや給水器周りの漏水はハエの餌場になります。清掃・乾燥を徹底しましょう。
- 幼虫を狙った殺虫剤の散布：幼虫期間が長い今こそ、糞便表面や堆肥の際など、幼虫が潜む場所に成長制御剤（IGR 剤）などを散布すると効果的です。
- ピットや排水溝の泥・スカム清掃：畜舎内の排水溝やピットに溜まった有機物はハエの格好の産卵場所になります。冬を迎える前に泥上げと洗浄を行いましょう。

（西部家保環境課 宮本課長）

☆ お 知 ら せ ☆

催 事 等	期 日	場 所
北陸三県和牛子牛市場、 県畜産共進会（和牛子牛の部）	10月22日	北陸三県家畜市場（金沢市）
とやまグルメ・フードフェス 2026	10月24、25日	富山産業展示館（テクノホール）
食品安全フォーラム in とやま	10月29日	富山県総合福祉会館（サンシップとやま）

発 行 所 富山県東部家畜保健衛生所 https://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6 電話(076)479-1106 F A X (076)479-1140
編 集 者 宮本 剛志（富山県西部家畜保健衛生所）
○最新号は右のQRコードからいつでもご覧いただけます。

